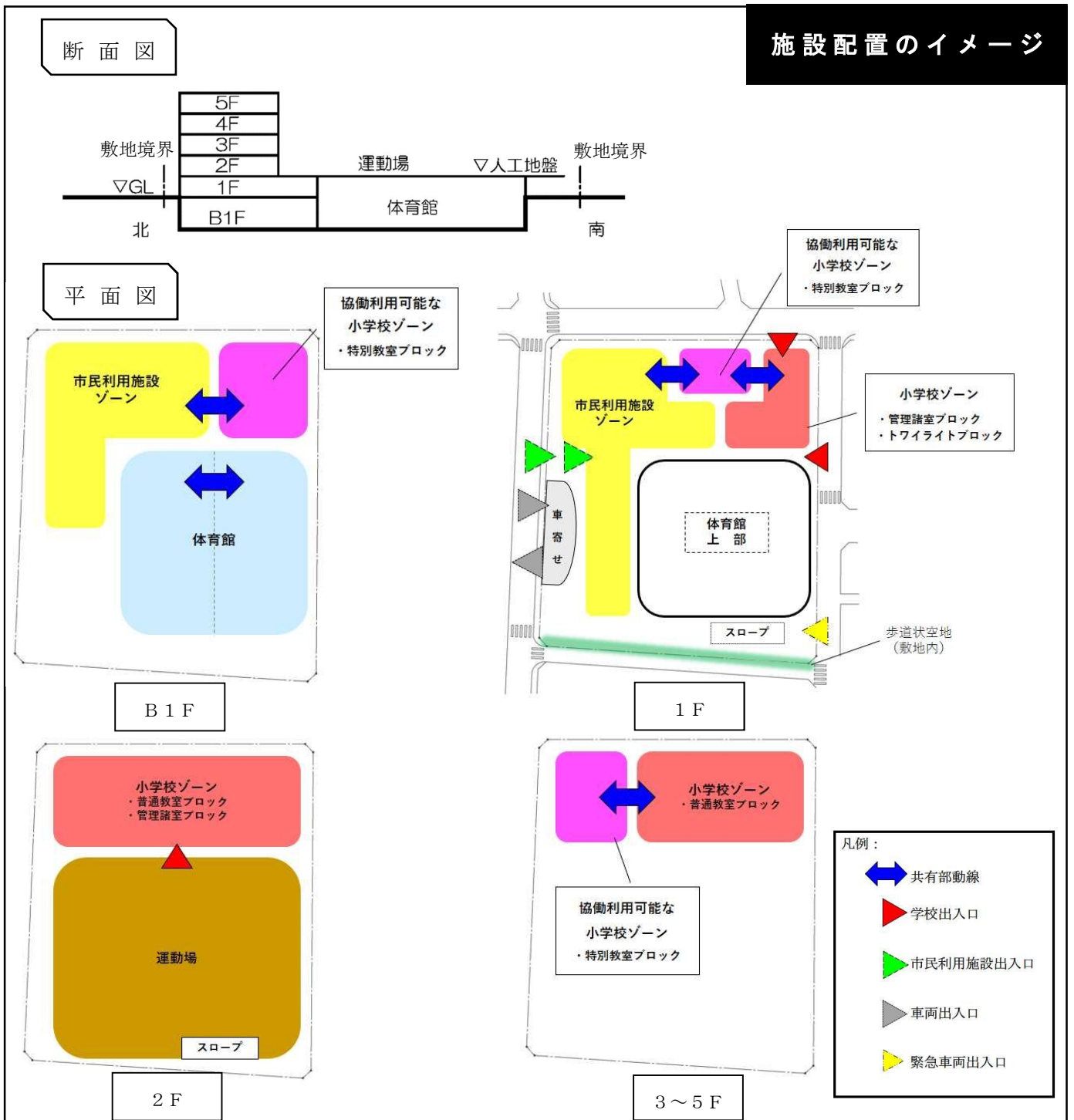


4-1 施設・ゾーン配置の考え方

建物の配置は、可能な限り広い運動場を確保するため、敷地南側に半地下型の体育館を整備し、その上部に人工地盤の運動場を整備します。校舎棟は敷地北側に配置し、地下1階、地上5階建ての規模とします。限られた敷地条件であることから、敷地内の駐車場とは別に駐車スペースを確保することを検討するとともに、小学校における水泳指導については、経費抑制や施設管理にかかる負担軽減等が期待できるため、学校プールへの整備は行わず民間プールの活用を検討します。

ゾーン配置は、多くの児童が学校敷地東側に居住していることから、小学校ゾーンを敷地東側に配置します。市民利用施設ゾーンは敷地西側に配置し、学校と市民利用施設における動線が交錯しないように配慮するなど、セキュリティの確保に努めます。



4-2 複合施設における機能（部屋）の考え方

橘小学校、中生涯学習センター、前津福祉会館及び前津児童館における現状の主な部屋と、そのうち、機能が類似・重複する部屋を下図に示しました。

今後、利用実態や利用状況などを踏まえ、必要な機能の整理を行い、部屋の共有化や部屋の必要数、事業の連携などを検討します。

また、ワークショップ・意見交換会等における様々なアイデアなどを踏まえ、複合施設に求められる新たなニーズへの対応についても検討を行います。

*凡例 …… : 類似・重複する機能を有する部屋

